



CAGLIERO 11

カリエロ



147 2021年 3月

サレジオ会宣教ニュース

サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信



会員の皆さん、
友人の皆さん、

聖ヨセフのお祝い、
おめでとうございます！

普遍教会の使命に奉仕する人の模範として、聖ヨセフの姿を黙想するよう皆さんを招きたいと思えます。伝統的に、特に3月中、毎水曜日は聖ヨセフへの信心にささげられます。聖ヨセフは私たちの取りなし手、支え、内的生活の師です。聖ヨセフ像は、サレジオ会の修道院では常に名誉ある位置に置かれます。聖ヨセフの偉大さは、この世に置かれた私たち一人ひとりの状況に寄り添ってくださることです：日常の中におられ、目立たずに、温かく迎えてくださいます。そのような方の存在によって、私たちは、兄弟姉妹のいのちへの責任を共に担うよう促されます。

私たちにとって聖ヨセフが、人々と共にあることの模範でありますように。私たちが、他者のために自分自身をささげるまことのキリストの宣教者となるために。聖ヨセフへの信心を新たにするとき、私たち皆が良い働き豊かな実を結ぶと私は信じています。

■ 中央・北ヨーロッパ地域顧問
ロマン・ヤヒモヴィッツ神父
SDB

COVID-19は希望を差し出すこともできるのでしょうか？



今年2021年のストレンナ解説を書きながら、私は全人類をあらゆる国で同時に苦しめている多面的な危機の影響を受けることなく、1ページも書き進めることはできないと記しました。私たちはいまだに、大変な困難の中を過ごしています；想像も予測も決してできなかったようなことを経験しています。私たちはまた、この何か月もの間、惜しみない献身と犠牲の働きをも目の当たりにしてきました。サレジオ家族として、私たちも、我らが父ドン・ボスコによく似た大いなる創意工夫をもって、多くの良いわざを行い、多くの人を助けました。

まもなく「日常」が戻るだろうと言われていています。私は自問します：この「新しい日常」は、どのようなものになるのだろうか、と。この一年を経て、私たち一人ひとりのうちに残るものは何だろうか。「失われた時間」、失われた経済を取り戻すための、死に物狂いの疾走が起こるのでしょうか？ 私たちが今日経験していることは、ただ恐ろしい悪夢として残るのでしょうか、それともその反対に、多くの人のうちに、社会の営みの中に、何か前向きなものを残すのでしょうか。「新しい日常」は、何か本当に新しいことをもたらすのでしょうか、より良い方向へ変えられるものがあるのでしょうか。何が私たちを待ち受けているのか、私にはわかりませんが、サレジオ家族としてたどることのできる旅があると感じます。その歩みは私たちにとって大変有益で、同時に、私たちのささやかな貢献を人々に差し出させてくれるでしょう。

心が頑なになり、絶えず不満をこぼしながら悲観的に生きる人々もいます。幸い、「いのち・生きること」を求めよう導くダイナミズムに動かされて歩み、正しいことを行おうと努力し、愛と奉仕を生きることに関心を向け、希望の光に照らされて働こうとする多くの人があります。希望に動かされて生きるとき、愛、奉仕、人間性に満ちた心が人生に意味をもたらすのを私たちは体験します。この世界はいまだに、人間性がおとしまられることによってあまりに苦しんでいます。実に、私たちの視点から見ると、人間にとって希望は、愛の重要な構成材料なのです。このことが、全世界のサレジアンと宣教への私の願いです。

■ アンヘル・フェルナンデス=アルティメ神父, SDB

振り返りと 分かち合いのために

- 今の「新しい日常」の中で、感謝を覚えることは？
- 置かれた場で、どうすればもっと希望をもたらすことができるだろうか？



アルバニアで、私はあなたの「使者」

メキシコのサレジアン・シスターがどうしてアルバニアの宣教師となったのですか？ アルバニアへ行きたかったのですか？

夢にも思いませんでした！ 1999年、チアパス州の首都、トゥストゥラ・グティエレスにある私たちの共同体を管区長が訪れました。管区長は、「ad gentesすべての民へ」宣教師として派遣されたくないかと私に尋ねたのです!!! 晴天の霹靂でした。何と答えたらいいかわかりませんでした。管区長は言いました：「考えて、祈ってくださいね。聖ヨセフの祝日までには知らせてちょうだい」と。私はとても混乱しました……宣教地？ Ad gentes海外宣教？ アフリカ？ たくさん祈りました。本当のところ、どこへも行きたくありませんでした：自分のいる場で満足していました；そこでも宣教していたのです！ 私は主のもとへ行き、言いました：「もしあなたのみ旨ならば、私はここにおります。あなたに何も断りたくありません。でも、もし管区長の夢のような思いつきにすぎないなら、私はここにいて全くかまいません。」そう、私のメキシコ、私の祝福された故郷を離れるのがこわかったのだと思います！ そして今、私はここにいます。神が私に望まれたのはここでした。そのことは、生きる上での大きな平安を私に与え、今も与え続けています。私はそれを求めませんでした、私は主の使者なのです。

ラテン・アメリカ人として魅了されるアルバニア人の特質は何かありますか？

もちろんあります！ アルバニアの人々の好きなところは本当にたくさんあります！ ここに来たとき最初に心を打たれたのは、人々から受けた歓迎でした！ 居心地いいように迎えてくれるだけではありません；本当に心から気にかけてくれます、すべてを差し出してくれるのです、心さえも！ アルバニアの人々はコミュニケーションが豊かで喜びにあふれ、いつでも祝い、学び、知ろうとします！ つまり、アルバニアに来て以来、私は人々と心が通じるのを感じています。

シスターにとって宣教の奉仕のための力、堅忍、インスピレーション、忍耐は、どこから来るのですか？

わあ！ 何という質問でしょう!!! 間違いなくそれは、主のみ旨に従っていると知っている、確かさからです！ 私は宣教師として歩み出すためにメキシコを発ってイタリアへ行くとき、母に言いました。「きっと一年たたないうちに戻ると思うわ！」メキシコに戻って、しかもチアパスに帰れたらとてもうれしい、そう思いながら私は出発しました！ その後で、もうそのことを口にしたり考えたりしまいと決めました；その代わりに、今の瞬間を生き、自分の「すばらしい嗣業(しぎょう)」を生き、愛そうと。いつもマリアに手を取ってもらいながら。私の友、導き手、助言者であるマリアに。



シスター・イザベル・アギラル, FMA

メキシコ、ミチョアカン州、モレリア生まれ。サレジオの環境で6年過ごした後、22歳のときサレジアン・シスターとして初誓願宣立。修道者としての養成、専門職の養成をメキシコで受け、教育学の博士号を持つ。

2000年以來、**アルバニア**で宣教師として働く。現在、**シュコドゥラ**の共同体で学校長を務め、またFMA事業の財務を担当。

フォーラム

ロマの人々

今日、世界には約**3600万人のロマの人々**がいます。そのうち1800万人が**インド**にいます。インドのラジャスタンがこの民族の発祥の地なのです。**ヨーロッパ**の900 - 1200万のロマの人々は、スペイン、フランス、東ヨーロッパにいます。100万人が**米国**、80万人が**ブラジル**で暮らしています。人口に占めるロマの人々の割合が最も高い国は**ブルガリア**です(10.5%)。

ロマといえば**貧困**、その行動は反社会的、あるいは不適合と受けとめられています。**サレジオ家族**はロマの人々がよりよく社会に入れるよう、いくつかの国で人々の**教育と権利**のために働いています。

3月
サレジオ
宣教の
祈りの意向

ゆるしの秘跡

アルバニアの若者が、ゆるしの秘跡の大切さをますます理解しますように。

私たちが新たな深さをもってゆるしの秘跡を体験し、神の限りないあわれみを味わえるよう、祈りましょう。

| 教皇フランシスコの祈りの意向 |

ヨーロッパ
のために

